

みなさんの学び舎である京都芸術大学にとって「大学博物館」はどういう存在であるべきでしょうか。京都芸術大学芸術館では、本学所蔵品や空間を活かし、本学学生（在学生・卒業生）や教員の作品や活動と協働し、大学の教育・制作・研究活動の一助となるよう学内外に開いていくことを目指しています。その一環としてこの度「芸術館通信」を創刊し、芸術館での本学の学生のさまざまな取り組みを紹介します！今後は、学生のみなさんに、記事作成や編集デザインに参加いただく機会も設けていく予定です。



相照館に新設された収蔵庫へ「学園美術品」約100点を納めました

本学では、教員や卒業生などが制作した美術作品を一部収蔵し、「学園美術品」として管理と活用を進めています。この春には、これらを収蔵する収蔵庫が相照館に新設されました。収蔵棚を設置し、環境調査を経て、ヤマトグローバルロジスティクスジャパンの美術運送作業員と芸術館学芸員、学生アルバイトが協力し、無事に「学園美術品」の絵画・工芸・彫刻作品約100点を収蔵することができました。（実施日2024年11月15, 21日）

学生が「学園美術品」の相照館収蔵庫への搬入作業に参加しました

今回、本学学生3名が学生アルバイトとして作品搬入作業に参加しました。写真制作を学ぶ院生、デザインを勉強する学生など、参加した学生の専攻はさまざま。学園美術品や芸術館についての説明を受けたあと、収蔵庫を見学し、美術運搬のプロの作業に立ち会いながら、作品用のラベルを貼ったり、作品が棚に適切に配置されたかを確認する作業などを行いました。「普通なら見られないような場所に入ることができたり、特に美術品専門の運送スタッフのことは

初めて知ったので、どのように運ぶのかなどが見学できて良い経験になりました。」などの感想もあり、学芸員資格課程は受講していませんが、博物館の裏側に興味をもってもらえたかと思います。今後も、学生が、大学ゆかりの美術作品に触れたり、美術作品を扱う仕事の裏側を体験できる機会を作りたいと考えています。

（実施日2024年11月15日）

「ZOUKEI-かたどられるモノたち」展（@京都市考古資料館）1/26まで開催中

（歴史遺産学科学生が企画に参加。芸術館所蔵品も展示。）